

第1回「在宅看取りを語り、考える会」



10月12日(金)、37名の方々にご参加いただき、第1回「在宅看取りを語り、考える会」を行いました。この企画は、市民とともに看取りを考え交流することを目的に、公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成募集に応募し、採用されて実現したものです。3回予定のうちの第1回目です。(中野三代子)

どうすれば？と 思っていたが、語り合っ て、なんだか安心したわ！

最初に三和病院顧問で、在宅診療を担当している高林克日己医師のミニ講座『人生の最終段階の医療と、最良の選択』を行いました。今後訪れる「多死社会」に向けて、自分や家族の終末期をどのように考え選択していったら良いのか、社会統計や実際に在宅で最期を迎えた方の事例をあげてお話をいただきました。「どう歳を重ねていくことが幸せなのか道標が持てた」「日頃自分の最期を考えることが多く大変参考になった」との感想がよせられました。高林先生のお話の要旨は、次号の『幸樹』に掲載します。

その後は二つのグループに分かれてお互いに経験や思いを語り合いました。皆さん、ご家族の看取りの経験やそこで感じたことを、良かったこと、もっとこうしかったことなどを率直に話されていました。思い出を話され、涙する場面もありましたが、どのお看取も「その人がその人生を生ききった」様子がよくわかりました。

幸樹会では、ご自宅や看多機さんしゅうでお看取りさせていただいた方々がたくさんいらっしゃいます。そのご家族の方も来てくださり、「お元気でしたか？」

「あの時はありがとうございました」「いつも気にかかっていました。また遊びに来てください」「こちらこそ今回声をかけてもらってありがたかったです。家にも寄ってください」という会話が聞かれました。その話を聞いていた周りの方も、「私は家族がいないので、いつも最期はどうすればよいのだろうと考えていたけれど、なんだか安心したわ」と話されていました。

「親を看取った方や、ひとりでお過ごしの方の気持ちを聞くことができよかったです」「自分を語りたくなる会だった。それが一番」との意見もいただきました。

お話しする時間が短くなってしまい「もっと話したかった」「時間が足りなかった」「5~6人の小人数でたっぷり話したい」というご意見もいただきました。

ということで、第2回はグループでお話しする時間を長めにとりたいと思っています。来年の3月に開催しますので、日時が決まりましたらチラシを作り、皆さんにお知らせしたいと思います。健和会訪問看護統括所長の小菅紀子氏に講演を依頼しています。東京足立区で「北千住を日本のデンマークに」という合言葉で実践を重ねている健和会。学ぶことがたくさんあります。今回は近隣の事業所の方も聞きに来てくださっていました。また是非参加してください。

さつま芋・落花生収穫 それなりに、上出来でした



10月20日、吉岡信太郎さんにお借りしているあんず畑で、さんしゅう利用者の皆さんが大勢参加して、さつま芋・落花生の収穫がにぎやかに行われました。

天候不順で心配でしたが、「紅あずま」「紫芋」「安納芋」の三種類のさつま芋、大粒落花生の「おおまさり」ともに、なかなかの出来でした。ゆでた「おおまさり」はおいしくいただきました。さつま芋は熟成中です。

第2回大運動会



▲玉入れ競争

10月16日、第2回幸樹会大運動会が開催されました。

12時から、まずは腹ごしらえ。4升のお米を炊いた運動会お弁当をみんなで楽しく美味しく頂きました。

食後、紅組、白組代表の選手宣誓で運動会がスタートです。まず玉入れ、赤組、白組に分かれ、籠を背負った職員がテーブル近くを移動します、かごにたくさん玉が入った方が勝ち。面白くて2回行いました。2つ目は、借り物競争。カードに書かれたクッションやラップ、ホッカイロ、新聞やプーサン、中野さんや大塚さんなどもあり、参加者の方が探して連れて行き、笑いが起こっていました。3つ目の競技は、スリッパとばしのあてゲーム。途中、足でスリッパがうまく飛ばず手で投げる人も登場し、大笑いがおこっていました。競技の結果、優勝は赤組になりました。

運動会後は、みんなで手作りのところてん、あんみつを食べました。また、グッドジョブ賞、よくがんばった賞、MVP賞の発表、賞状授与を行いました。優勝の赤組、準優勝の白組にトロフィー、全員に参加賞が渡されました。皆さん、いつもよりはらかに動き回り、活動的でしたが、事故もなくケガもなく安全に終わることができました。

(大橋麻子)



▲スリッパ飛ばし



▲ところてん突き

介護職のこころ

看多機さんしょう介護福祉士・原 広和

私が介護職を始めて感じたのは、ご利用者の社会が狭くなってしまっているということでした。アセスメントなどを見ると“昔はこうだった、こういうことが好きだった”など書いてあるのに、極端に外出は少ない、何もしない方々がほとんど感じていました。

仕事をしていく内に、それは仕方のないところもある事も分かってきました。当時はグループホーム勤務だったので、ご利用者9人に日中の職員は2~3人、1人は食事を作り1人は入浴介助、他にも記録等の業務があり、その他には手が回らない状況がありました。

ご利用者も、食事やお風呂・トイレなど意識せずとも出来ていたことが特別重要で大変な焦点になってきていて、行きたい所ややりたい事は遠いものになってしまっているように思えました。だから、介護職の「なにかしたい事はございませんか？」には、「特にないねえ」と…。

温泉行を実現！

勤務半年が過ぎたあたりの会社の事例発表会で、ご利用者と一泊二日の旅行に行ったという発表があり、いつか自分もやってみたいと希望をもちました。

今年8月から認知症実践者研修に参加することになり、実践研修の対象としてご了承いただいたAさんは、「昔は色んな所に行った。温泉も好きで良く行った」ということなので、ここの環境ならば温泉行ができるのではと企画を始めました。ありがたいことに、一緒に行けるという女性介護職員と看護師さんが手を上げてくれました。松戸市内のいくつかの銭湯と温泉に車椅子でも利用できるかどうかなど問い合わせ、時間・料金は・入浴介助方法など、下見も行い検討しました。

9月8日の温泉行の日、Aさんも緊張されていたと思いますし、私も心配や不安がありました。温泉にはゆっくりと浸かれたようでした。少し熱く、腰までのようでしたが、「また行きたいねえ。今までの中で1番じゃないけれど、5番以内には入るねえ」とAさん。

今回は温泉でしたが、改めて「今までしていた事をしていく」を支援する難しさを実感しました。私はこれからも、出来るだけ自分は黒子となりご利用者が主体である介護を目指して行きたいと思っています。

今月の屋上太陽光発電量は、

435KW

幸樹会館電力使用量 3947KW 自給率 11.02%





デンマーク便り...⑩

ラスムッセン 京子

前回、冬時間の始まりが9月の最終土曜日だと書いてしまいましたが、間違いです。10月の最終土曜日です。勘違いしたまま仕事に早めに出かけてインターネットしようと思ったら即診断が待っていました。今回はお詫びと訂正から始まってしまいましたが、日本でも11月といえば文化的な活動が盛んですが、デンマークでもその傾向は同じです。

10月は、国民がカルチャーナイトを利用して、博物館・美術館・科学館・水族館・動物園等、家族中で文化を楽しみます。

鹿や兔が届けられたら!?

でも、秋は収穫期に美味しい果物や農作物をその年の恵みそして労働の甲斐があったと喜びを分け合う形に成ります。

11月は、紅葉の素晴らしさを森林浴で満喫し、キノコ狩りが盛んになります。



日本では毒キノコに分類されていますが Kanteral や Karl Johan (ヤマドリタケ) はデンマーク人の大好きな茸です。高価ですがスーパーでポーランド産などが購入できます。寒い冬に備えて、乾燥茸を作るのは楽しみです。家族で森に出かけて森の宝石を手に入れます。秋に収穫したプルーンや梨、ありとあらゆる果実でピクルスと保存食を作って長い冬に備えます。

10月1日から1月31日迄は、森で野生動物を狩りすることが出来ます。自分の敷地内に森のある人でないと狩りは出来ませんが、狩りの好きな人はその権利を農場主に5年契約で借りることが出来ます。私の島・ボーンホルム島でも、狐が15年ほど前にドイツ人観光客が連れてきた狂犬病に感染していた犬のせいで絶滅し、天敵のいなくなった島では、野兔や鹿が増えています。鷹は生息していますが、小動物や鶏などしかとりません。植林地を荒らすので、我が家も月一度位狩りをしてもらっています。一回に鹿15頭、野ウサギ30匹、野生のガチョウ、鴨、雉20羽などを5人位で撃つそうです。時々鹿3頭、野ウサギ4匹とか届いてしまうとその処理が大変です。3日ほど血抜きのために頸動脈を切って頭を下げて釣り、その後皮を剥がして内臓を出して、色んな部位に分けて全て冷凍するので、2台の800ℓの冷凍庫が一杯に成ります。ガチョウ、鴨、雉も羽を熱湯に浸して羽をむしり、残った薄毛をアルコールに火を入れたフライパンの上で焼き処理して、内臓を取りそのまま冷凍にします。これで冬ごもりの準備が終わります。

さあ、クリスマス の 12 月 に向けての準備に忙しい田舎の生活です。

第1回幸樹会事業活動・事例検討集会



10月4日、第1回幸樹会事業活動・事例検討集会がひらかれ、各事業所から6演題が発表されました。仕事・ケアの目標指向的なとりくみが、少しずつ定着しつつある検討集会になりました。

10/16 定例さんしょう運営推進会議の報告

今回は、松戸市介護保険課の岡田さん・阿部さん、住民代表の鈴木さん、利用者代表井上さん、三和病院MSW藤巻さん、セントケア松戸の手塚さん、かえりえ八柱の大森さんに参加していただきました。法人からは4名が参加。運営報告の後、「活動報告のどの写真も皆さん笑顔が素敵で、自身の事業所も、様々なイベントやレクなどを通して笑顔を引き出したかった」「地域交流カフェの写真を見て、子供が結構いるのに驚いた。地域に開かれた活動をしているのだと感じた」「学習会だったり、認知症研修に参加したりと積極的に学習の機会を設けていることは良いと思う。今後も勉強を続けていってもらえたらと思います」などのご意見・感想をいただきました。(岡本健吾)

新入職員の紹介

看護師 中村 佐智

私は今まで病院で15年ほど働いてきました。長い病院勤務の中で、自宅での予防的なケアの重要性に気づかされ訪問看護をしてみたいという気持ちが芽生えました。病院での経験を活かし、一人でも多くの方が自分らしい生活を送れるようポートしていきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。



八柱学習会

- 前回報告 10月19日(金)。助言者 武井幸穂氏 認知症ケア実践者研修報告・原 広和(さんしょう)。コラムに掲載の実践事例を詳細に報告。18人参加。
- ▼次回学習会予定(「定例日:毎月第3金曜日」)
- 11月16日(金)、18:30~、「ケア事例報告」・大塚かすみ(あんず訪問看護ST) 場所:幸樹会館2階会議室《参加自由》

職員募集! 非営利・働きがいある職場
薬剤師・看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ: 本部中野まで、☎047-701-7550